



いずみこども園だより

10月号

令和8年9月30日
千代田区立いずみこども園
園長 横澤 峰紀子



いずみこども園
ホームページ
QRコード

【教育目標】元氣な子ども やさしい子ども ☆考える子ども

— 遊びながらぐんぐん育つからだの力 —

乳児副園長 村田 靖孝

ある日の夕方、東京の空がオレンジ色に染まりました。最近は気温の変化が大きく、急な雨や蒸し暑さが続く日も多い中で、その日は久しぶりに空気が澄み、やわらかな夕焼けが広がりました。とても美しい空だったため、職員みんなで思わず外に出て、しばらくその光景を眺めていました。これからも子どもたちが安心して遊べる穏やかな空が続いてほしいと願っています。

そのとき、園庭にいた2歳児が夕焼けに気づき、両手をぱっと広げて「わぁ…」と声をもらし、ゆっくりと空に向かって手を伸ばしていました。近くにいた5歳児が「空、さわれるかな？」と言いながらジャンプを試みせると、乳児の子どももまねをして小さくぴょんと跳ねてみせました。年齢は違っても、同じ空を見上げながら体を動かす姿に、職員も思わず笑顔になりました。

子どもは、心がうきうきしていると自然に体が動き出します。十分に体を動かすことは、運動能力だけでなく、骨格や生理的な機能の発達にもつながります。「もっと動きたい」という気持ちが満たされることで、「もう一度やってみたい」「もっと難しいことに挑戦したい」という意欲が育ちます。また、体を使った遊びをバランスよく経験することで、我慢したり葛藤したりするなどの“しなやかな心”も育まれていきます。

乳児期においても、運動の芽は「遊び」から育ちます。はいはいで向かいたい場所へ進んだり、つかまり立ちで手を伸ばしたり、気になるものを見つけて体をひねったりする一つ一つの動きが、体の基礎づくりにつながります。安心できる環境の中で、思いのままに体を動かす経験を重ねることが、乳児期の大切な発達を支えています。

こども園では、日々の保育の中で、遊びを通して体を動かすことを大切にしています。子どもたちは遊びの中で歩く・跳ぶ・まねをするなど、様々な動きを自然に経験し、「もっとやりたい」という気持ちを育てていきます。私たちは、子どもたちが思いきり体を動かし、自分のペースで挑戦できるよう、環境づくりにも力を入れています。園庭や保育室の遊びのコーナーを工夫したり、季節や気候に合わせて活動の幅を広げたりしながら、子どもたちが安心して“たっぷり遊べる”時間を大切にしています。

遊びの中で生まれる小さな成功体験や、うまくいかないときの葛藤も、心と体の成長につながる大切な学びです。子どもたちの「やってみたい」という気持ちを受け止めながら、乳幼児期に必要な多様な動きを経験できる環境づくりに努めています。

10月10日には、いずみふれい（あい）スポーツを行います。親子で触れ合いながら、笑顔あふれる楽しい1日となるよう準備を進めています。当日は、子どもたちの成長を見守り、親子で触れ合う温かな一日となれば幸いです。季節の変わり目で体調を崩しやすい時期ですので、どうぞ無理のないようお過ごしください。

